

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立北小学校

1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

国語科の授業において、子どもたちが主体的に考えて、その考えを書き、伝え合う機会を設定しました。その成果として、記述式の問題への無解答率が全て低く、書くことへの意欲がある児童が多くなっています。

基礎学力の定着をめざして、朝の時間や授業のはじめに、計算タイムに取り組んだり、既習事項の確認として、各教科で学習した内容を音読したりする時間を確保しました。その成果として、昨年課題が見られた「知識・技能」の観点について全国と比べて平均正答率が高くなりました。

算数への苦手意識の克服のために、T・T（チーム・ティーチング）や少人数指導、すき間時間の個別指導を通して、一人ひとりの実態に即したきめ細かな指導・支援を進めました。その成果として、質問紙調査において、「算数がわかる」と肯定的に回答する児童の割合は全国と比べて高い結果となりました。一方で、「算数が将来役に立つ」ことや「算数で別の解き方を考えることの大切さ」について肯定的に回答する児童の割合は全国と比べて低い結果となりました。より学習と日常生活との関連を児童が実感できるような指導の工夫をしてまいります。

2. 教科における成果と課題について

【成果】

今年度の平均正答率は全国と比べて国語・算数ともに高い結果となりました。

昨年大阪府学力調査「すくすくウォッチ」で課題が見られた国語科の「情報の扱い方」に関する区分や、算数科の「測定／変化と関係」の区分についても、全国に比べて平均正答率が高い結果となりました。

<国語科>

○物語を読んで心に強く思ったことと、その理由を書く問題の平均正答率が全国より上回りました。これは、日々の授業でノートに書く機会を持ってきたことや、特に国語では毎單元ごとに「終わりの感想」を書くことが定着し、国語での書く学習への習熟の成果が表れていると推察します。

○漢字や文法の問題の平均正答率が全国より上回りました。タブレット学習や授業での取組みの積み重ねの効果が表れていると考えます。

<算数科>

○円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題では、全国に比べて正答率が10ポイント以上高い結果でした。展開図を書いたり、具体物を操作したり、デジタル教科書の動画を活用したりする活動を行っていることから、どの展開図が正しいか判断できたと推察します。

○ $540 \div 0.6$ の計算や、除数と商の大きさの関係の問題など基礎的な問題の正答率が全国に比べて高い結果となりました。朝の時間や授業のはじめに計算練習や算数音読に継続して取り組んでいる成果が出たと推察します。

【課題】

<国語科>

- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討する力に課題が見られました。オンライン交流の場面から考える問題だったので、そのような経験が少なく、問題にも慣れていなかったことが考えられます。また、静かに聞いたり、自分の意見を書いたりして伝えることはできますが、話して伝えることが苦手な児童が多くみられます。ICT機器や資料を活用しながら、自分の考えを伝え合う機会をもち、自信をつけていけるよう、指導や支援を進めます。
- 不正解率が全国より高かった解答類型を見ると、難しい漢字（競技の競）が書けていない、字数制限を満たしていない、思った理由の記述が不十分であるといったことが見られました。漢字や書くことが苦手な児童への支援も丁寧に進めます。

<算数科>

- 数量の関係を、□を用いた式に表す問題に課題が見られました。□を求める式を求めることと、場面の通りに式に表すことが混同していると推察されます。問題場面を図や絵、数直線に表す活動をより意識して取り入れます。
- 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述する問題についても課題が見られました。2つの観点のうち、1つは記述できているが、もう1つを記述できていない誤答が多く見られました。条件をつけて記述する場면을より積極的に学習活動に取り入れます。

【別紙様式】

3. 児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
①地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	77.1	87.2	83.5
②英語の勉強は好きですか	52.8	79.0	69.3
③算数の授業の内容はよく分かりますか	74.3	86.0	82.1
④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	67.1	79.1	80.8
⑤総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	67.1	82.5	81.3

本市の重点目標として「グローバル人材の育成（英語・地域学習）の推進」が今年度より設定されております。本校はコミュニティ・スクールとして3年目を迎えており、さまざまな地域人材が学校活動を支えてくれていることによって、その姿を見て育つ児童たちが地域社会を意識することが多くなっています。その第一歩として各学年での地域学習が今年度よりカリキュラム化されています。本校6年生は、昨年度は本格的な学習田を提供していただき1年を通して稲作の学習を実施しました。一方、英語については、専科指導教員を配置して2年めになります。加えて今年度は「English Room」を設置し、低学年から高学年までそれぞれが興味関心を持つ掲示物などを作成したり、休憩時間にも英語に触れる環境を整えたりし、英語そのものに対しポジティブな気持ちを持ちながら学習できています。これらの取り組みを踏まえ、グローバル人材の育成における指標として①②のアンケート結果を見ると、いずれも昨年度と比べ大きく成果が出ていることがあらわれています。

昨年度の全国学力・学習状況調査では、算数において、全国の平均正答率を下回る結果となっていました。そこで計算の過程の意味理解や、示された表から必要な数を読み取る問題に課題を見つけ、それらに苦手意識がなくなるように指導をしてまいりました。その結果③のようなアンケート結果につなげることができました。

④について、ICTの本格的導入によって調べ学習の方法も、従来の紙ベースの方法から一変しました。今までは情報そのものを探し出すことに労力を費やしていましたが、インターネット上の膨大なリソースを手に入れることができ、その中から正確な情報を選び出す作業が昨今の児童たちのテーマとなりつつあります。そのような児童を取り巻く環境の変化が、⑤のアンケート結果につながったのだと考えます。

そのほかのアンケート結果からも「人の役に立ちたい」「人が困っているときは進んで助ける」「先生が自分の良いところを認めてくれている」などの項目で全国より良好な結果が出ており、児童たちの幸福感が高いことがうかがえます。各家庭での保護者のご協力、学校で指導に当たる教職員、あたたかく見守っていただいている地域の相互作用がこの結果に結びついていると推察いたします。今後も、子どもたちの健やかな成長に向け、関わる多くの人との深い結びつきを大切にして信頼関係を築いてまいりたいと思います。